

光市有害鳥獣捕獲対策協議会	光市	R2	イノシシ シカ カラス カワウ ヌートリア タヌキ イタチ アナグマ ノウサギ	鳥獣被害防止施設	侵入防止柵 1.980m	光市有害鳥獣捕獲対策協議会	R3.2～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の被害軽減及び捕獲効率の向上	7,662千円	7,326千円	110%	5.98ha	5.47ha	120%	イノシシの被害額は平成30年度と比べ32パーセント減少し、改善が見られる。これは、防護柵の設置を推進し、地区猟友会会長と相談の上、捕獲隊に貸出している箱わなの稼働率を上げることにより、被害を及ぼすイノシシを駆除していることが寄与したと考えられる。さらには、令和4年8月頃から豚熱で死亡したイノシシが発見され、当該疾病により相当数のイノシシが死んだことも被害減少の要因になっていると考えられる。 サルも周辺市町も含めた大型囲いわなによる捕獲により、群れによる出没が皆無となり、計画目標を達成している。	たとえ被害が減少しても、相変わらず多くの耕作放棄地は存在し、豚熱終息後はイノシシが増加に転ずるリスクは高いと考えられる。 また、現時点でもイノシシ等の農作物や生活環境への被害は続いており、上記第三者の意見を踏まえ、総合的な対策を練ってはならない。 そうなるを、捕獲員の保持・増員は必要であり、捕獲隊や地区猟友会と協議し、捕獲隊以外の地区猟友会員も参加しやすい有害鳥獣捕獲体制を検討する必要がある。	イノシシ・サルともに被害に係る目標値を達成できている。防護対策や捕獲対策等を確実に推進してきた結果と思われる。イノシシについては、豚熱の影響も考えられることから、今後の被害を注視することから、必要がある。 今後も継続して被害を減少させていくために、加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努め、地域ぐるみの被害防止活動の取組を推進いただきたい。
		R3		ICT等新技術の活用 鳥獣被害防止施設	わな管理システム 15基 侵入防止柵 2,470m	光市有害鳥獣捕獲対策協議会	R4.2～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の被害軽減及び捕獲効率の向上 ICT機器の整備による捕獲コストの削減							ただし、これまで被害がなかったヌートリアによるキャベツ等の食害が発生しており、小型箱わな等による捕獲が必要となっている。 なお、当市は地区猟友会員の捕獲隊加入率が低いという問題があり、捕獲隊及び地区猟友会と捕獲員増員のための協議を継続する必要がある。		
		R4			鳥獣被害防止施設	侵入防止柵 2,400m	光市有害鳥獣捕獲対策協議会	R5.2～	100%	侵入防止柵設置による農林産物の被害軽減及び捕獲効率の向上								
長門市有害鳥獣被害防止対策協議会	長門市	R2	イノシシ シカ サル	有害捕獲 ICT等新技術の活用 ICTによる情報管理の効率化 ジビエ等の利用拡大 緊急捕獲活動	サル大型捕獲檻 1基 長距離無線式パトロールシステム 親機1基、子機31基 在庫管理システムの導入 ジビエ利用展への出席 PR研修会・試食会の実施 イノシシ 555頭 シカ 787頭 サル 84頭	長門市有害鳥獣被害防止対策協議会	R2.10～ R3.1～ R2.11～	100%	ジビエ利用拡大に係る取組による捕獲個体の利用拡大 捕獲檻等の整備及び捕獲匠の維持による生息数の増加抑制	30,828千円	17,597千円	200%	30.17ha	20.83ha	172%	鳥獣被害防止施設の整備や捕獲等の対策だけでなく、捕獲個体の利用促進を図るためにジビエに係る各種研修や処理加工施設の整備を実施するなど、川上から川下までの対策を総合的に推進した結果、被害金額及び被害面積の令和4年度の目標値を達成することができた。 鳥獣別では、シカの被害面積のみが目標値を未達成となったが、その面積は減少傾向にあり、猟友会による駆除の取組等が成果を上げていると考える。 サルについても大型捕獲檻の設置等による成果が上がっている。 今後とも防護・捕獲の川上からジビエ利用等の川下までの総合的な対策を推進していくとともに、担い手確保のため、捕獲従事者に対する支援の継続や新たな担い手確保のための対策を進めていく。	長門市では、イノシシ・シカ・サルの被害が多く、その中でもイノシシとシカの被害が深刻な状況にあります。被害対策として、侵入防止柵等の施設整備を計画的に実施し、個体数管理も捕獲従事者が効果的捕獲を行っていることから、一定の効果があると考えます。 また、捕獲個体のジビエ利用として、ジビエ加工施設の整備やウインナーやドッグフードなどの新商品開発を行っていますが、この取り組みは、捕獲を後押しする対策として効果的なものと考えられます。 こうした被害対策を講じることによっても、被害金額及び被害面積ともに減少して効果は上げていますが、被害はまだ続いています。今後は、これまでの対策に加えて、被害が新たに発生する可能性が高い地域を中心に、農家に対する被害対策として、被害防除・個体数管理・生息地管理の3つを総合的に進める指導を行う必要があると考えます。現状把握の集落点検調査を行いながら農家と連携して「地域ぐるみ活動対策プラン」を作成し、集落単位の被害対策にも力を入れていただきたい。	イノシシ・サル・シカの主要鳥獣について、被害が減少しており、防護対策や捕獲対策の効果が出ていると思われる。 また、捕獲個体のジビエ利用に係る取組も進めており、捕獲匠の維持に寄与していると考えます。 今後も継続して被害を減少させていくために、加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努め、地域ぐるみの被害防止活動の取組を推進いただきたい。
		R3		有害捕獲 ジビエ等の利用拡大 重点捕獲対策強化 処理加工施設 緊急捕獲活動	サル大型捕獲檻 1基 新商品の開発 PR試食会の実施 既存商品及び新商品の広告 捕獲檻 1基 プレハブ冷蔵庫設置 電気工事 冷蔵庫収容建物建設 イノシシ 628頭 シカ 756頭 サル 51頭	長門市有害鳥獣被害防止対策協議会	R3.9～ R4.2～ R4.1～	100%	ジビエ利用拡大に係る取組による捕獲個体の利用拡大 処理加工施設の整備による捕獲個体の受入れ能力の向上 捕獲檻の整備及び捕獲匠の維持による生息数の増加抑制									
		R4			有害捕獲 ジビエ等の利用拡大 鳥獣被害防止施設 処理加工施設 緊急捕獲活動	捕獲檻 1基 新商品の開発 侵入防止柵 4,636m ジビエ加工施設の増築※ イノシシ 467頭 シカ 859頭 サル 22頭	長門市有害鳥獣被害防止対策協議会 ※徳山猪 鹿工房想	R4.8～ R5.3～ R4.11～	100%	ジビエ利用拡大に係る取組による捕獲個体の利用拡大 処理加工施設の整備による捕獲個体の受入れ能力の向上 捕獲檻の整備及び捕獲匠の維持による生息数の増加抑制								

山口県	-	R4	-	広域捕獲活動(有害捕獲) 新技術実証・普及活動 ジビエ利用拡大	現地検討会の開催 実証3課題 処理加工施設を対象とした研修会の実施 ジビエの衛生管理に関する個別相談会の実施	-	-	-	野生鳥獣に対する適切な保護・管理、効率的な防除等の実現 効率的かつ効果的な防護、捕獲技術の開発及び実証 ジビエ処理施設に対する専門家の指導による衛生管理の向上	-	-	-	-	-	-	実証成果について、市町や関係団体等に情報提供するとともに、現地適用が可能な技術について普及を図る。 また、ジビエの利用拡大のために、処理施設の衛生管理の向上とともに、ジビエの普及啓発・販路拡大を図る。	-	-
-----	---	----	---	---------------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価

山口県全体の被害額は、平成22年度の8億円をピークに減少傾向にあり、令和4年度は3.7億円まで減少した。今後も引き続き農林業被害を軽減するため、各種事業を活用しながら、地域住民主体の「捕獲」、「防護」、「生息地管理」による総合的な被害防止対策を推進し、地域ぐるみで取り組む被害防止活動を全県展開する。